

平成 22 年 5 月 1 日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520379

研究課題名(和文) 近代カンボジアにおける国語の成立に関する研究

研究課題名(英文) A Study on the Establishment of the National Language in Modern Cambodia

研究代表者

笹川 秀夫(SASAGAWA HIDEO)

立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・准教授

研究者番号：10435175

研究代表者の専門分野：地域研究

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：社会言語学、地域研究、カンボジア研究

## 1. 研究計画の概要

本研究は、植民地期以降のカンボジアにおける国語の成立過程を解明することを目的としている。具体的には、以下の課題を検討する。(1)植民地期後半に出現する若手改革派の僧侶が中心となった辞書の刊行と、それにとまなう正書法の確立という課題がある。この課題の検討に際して、植民地期の対仏教政策や、仏教界の反応などが調査の対象となる。(2)植民地時代のみならず、独立後も継続したフランス語教育と、それと並行する形で進められたクメール語教育を取り上げ、その内容、対象者などを検討する。(3)近代的な概念を表わすための借用語や新造語の調査が挙げられる。近代的な概念を表わすための新語には、インドに由来するサンスクリット語やパーリ語が使用されており、本研究ではカンボジアにおける新造語とフランス語の対照表などを資料とし、タイ語で作られた造語がカンボジアに与えた影響などを分析する。(4)クメール語の文法書を検討の材料とする。イアウ・カウフ著『クメール語』(1947年)は、カンボジア初の文法書であると考えられ、同書やフランス語による入門書・文法書の分析から、植民地下で形成された言語観がカンボジアの知識人に与えた影響を明らかにすることを旨とする。

## 2. 研究の進捗状況

本研究課題の推進に際して、植民地期以降のカンボジア仏教における改革運動の展開を正確に把握する必要があった。そのため、2007年度から2008年度にかけてカンボジア国立公文書館において、カンボジア理事長官文書を閲覧し、データを収集した。その成果

は、論文「植民地期カンボジアにおける対仏教政策と仏教界の反応」として刊行済みである。カンボジアにおける国語の成立という研究テーマのうち、(1)正書法の確立、および(3)新造語の作成については、上記の理事長官文書では十分なデータが得られず、1902年から刊行された官報を網羅的に閲覧し、データを収集する必要がある。2008年度から、日本学術振興会科学研究費補助金、基盤研究A(海外)「大陸部東南アジア仏教徒社会の時空間マッピング：寺院類型・社会移動・ネットワーク」(研究代表者：林行夫、京都大学地域研究統合情報センター教授)に研究分担者として参加し、官報から仏教に関するデータを網羅的に収集することになったため、正書法の確立や新造語の作成に関わった委員会に関するデータも平行して収集することを開始した。2010年5月現在、1960年代半ばまでのデータ収集を終えており、2010年度の調査によって1960年代後半と1970年代前半の官報を閲覧することで、データ収集を完了する予定である。

## 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由)

この3年間、依頼による学会発表が多く、学会発表は下記の6件に加え、カンボジアの文化ナショナリズムに関する学会発表3件を実施している。学会発表が増えたことから、その準備に時間を割くことになり、論文は当初の予定よりも刊行が遅れているが、上記のテーマ(1)正書法の確立と(3)新造語の作成に関わった僧侶についての調査を終え、論文「植民地期カンボジアにおける対仏教政策

と仏教界の反応」として発表した。また、テーマ(2)に関連する植民地期の教育については、カンボジア、シェムリアップにあるフランス系の研究組織 Center for Khmer Studies が刊行している査読誌 Siksacakr に英語論文を投稿し、査読を通過している。当初は2008年号に掲載される予定だったが、2009-2010年合併号が植民地期のカンボジアに関する特集になったため、この合併号への掲載を打診され、了解した。したがって、この英語論文は、2010年度内に刊行される予定である。

#### 4. 今後の研究の推進方策

2010年度が本研究計画の最終年度になることから、夏季休暇に1ヶ月程度、カンボジアでの調査を実施し、官報から言語政策および仏教に関するデータの収集を終えたい。その調査および過去の調査で収集したデータをもとに、10月ごろに正書法の確立および新造語に関する学会発表を実施し、平行して論文の執筆を進めていく予定である。また、論文「植民地期カンボジアにおける対仏教政策と仏教界の反応」は、現状ではワーキング・ペーパーという形で刊行であるが、当該論文の前半部分は、英語圏やカンボジア国内を含めて、世界的にも紹介されていない資料を用いている。そのため、2010年度内に間に合うかどうかは不明ながら、将来的に英語論文にして査読誌への投稿を考えている。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### 〔雑誌論文〕(計4件)

(1) 笹川秀夫「植民地期のカンボジアにおける対仏教政策と仏教界の反応」京都大学グローバル COE ワーキングペーパー、Area Studies No. 85、2009年11月30日、27頁、査読無。

(2) 笹川秀夫「東南アジア」山川出版社編集部編『世界各国便覧』(新版世界各国史 28) 山川出版社、2009年7月31日、17、22、29、31、43-44、46-49、53頁、査読無。

(3) 笹川秀夫「東南アジア学会、近年の活動」『アジア経済』49(10)、2008年10月15日、57-69頁、査読有。

(4) 笹川秀夫「新刊紹介 - 北川香子著『カンボジア史再考』連合出版、2006.10刊」『史学雑誌』116(6)、2007年6月、87-88頁、査読無。

##### 〔学会発表〕(計6件)

(1) 笹川秀夫「近現代のカンボジアにおける国民文化の形成過程：改革派僧侶にとっての仏教、言語、文化遺産」同志社植民地研究会主催「ヨーロッパと日本における植民地主義と近代性」第32回研究会、於同志社大学、2009年10月24日。

(2) 笹川秀夫「世界遺産と文化ナショナリズム、国際武力紛争 - カンボジア = タイ間におけるブレア・ヴィヒア遺跡問題」日本国際文化学会第8回全国大会、於佐賀大学、2009年7月5日。

(3) 笹川秀夫「1920~1940年代のフランス語版官報にみるカンボジア仏教関連記事」京都大学地域研究統合情報センター共同研究ユニット「地域情報資源共有化プロジェクト - 地域情報学の創出」2008年度第3回研究会、於熊本大学、2009年3月13日。

(4) 笹川秀夫「近代カンボジアにおける仏教改革運動と寺院壁画 - 文献資料と図像資料から」京都大学地域研究統合情報センター共同研究ユニット「地域情報資源共有化プロジェクト - 地域情報学の創出」2007年度第3回研究会、於金沢市内新右衛門秀峰閣、2008年2月2日。

(5) SASAGAWA Hideo, "Hybridization and (Un)contested Histories of Khmer and Thai Cultures," Paper presented at 2007 Ritsumeikan Asia Pacific University Conference, January 22, 2008.

(6) 笹川秀夫「植民地期のカンボジアにおける対仏教政策と仏教界の反応」東南アジア学会関西例会、於京都大学東南アジア研究所、2007年7月21日。